

事業完了報告書（実行団体）

| | |
|----------|---------------------------------|
| 事業名: | コロナ渦における住宅確保要配慮者への支援事業 |
| 資金分配団体名: | 公益財団法人佐賀未来創造基金 |
| 実行団体名: | 一般社団法人 すまいサポートさが |
| 実施時期: | 2021年3月～2022年2月 |
| 事業対象地域: | 佐賀県 |
| 事業対象者: | 住宅確保要配慮者（高齢者、障がい者、ひとり親、養護施設退所者、 |

Version 3.2

日付: 20xx年xx月xx日

I. 事業概要

| | |
|--------|--|
| 事業実施概要 | コロナの影響を受けて現在住んでいる場所から退去を余儀なくされる方がいました。その中でも社会的に孤立孤独状態にあり、連帯保証人が見つからない等の理由で居住の確保が難しい住宅確保要配慮者へ、入居支援（賃貸物件の紹介、契約時のサポート、連帯保証人代行）と入居後支援（属性に応じた支援団体とのサポート体制の構築、生活相談、食糧支援、家賃貸付など）を行いました。1年間の相談件数は97件、入居件数は57件、生活支援軒数は延べ456件でした。10～80代と幅広い年齢層から相談が寄せられました。特に50代、40代からが多かったです。50代が多い理由として、障害がある方からの相談が著しく増えているので、両親が無くなり家族関係や支援体制が崩れ社会的に孤立して困窮に至っているのではと考えています。さらに、離婚などの環境の変化、お子さんがいらっしゃる家庭では出費が増える時期など経済的に不安定になる時期でもあり、コロナによる減収で拍車がかかり家賃滞納、退去に至ったのかと考えています。40代では、コロナでの派遣切りによる困窮が多く見受けられました。派遣では寮付きの仕事も多く、仕事と共に住まいを失うケース。コロナの影響で収入が減り社協の貸し付けなど緊急対応を受けると、コロナ前から困窮所歌だったので一時しのぎにしかならず、結局家賃の滞納が続き退去に至り住まいを失うケースなどが典型的なケースでした。ホームレスの方が、コロナによる社会不安から住居を求めるケースもいくつかありました。そんな中、気になるのは、最近になってDV関係の相談が増えていることです。コロナの影響は直接的な物だけでなく、社会全体の不安やストレスが増え、間接的にそのしわ寄せが徐々にDV被害者を含む社会的弱者へ向かっているように感じます。 |
|--------|--|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|-------------------|---|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | もともと住宅確保要配慮者の問題はあり、当法人はその問題に取り組んできました。2021年のコロナ第1波のころから相談案件が増えてきていたことから、この1年は様々な影響が出て案件増えることは予想していました。しかし、この1年を振り返ると、その予想をはるかに超える数の相談があり、コロナが社会的弱者に及ぼす影響を実感しました。 居住確保へのコロナの影響として考えられるのが、まず派遣切りなど仕事が無くなり家賃が払えず強制退去になるような直接的なものです。40代に多く見られました。緊急貸付、家賃補助など行政の救済措置はありましたが、私どもに相談に来られる方の多くはコロナ前から社会的に孤立し困窮している状態にあり、救済措置では根本的解決に至らないので一時しのぎにしかならず、コロナが長期化したことで生活を崩し住居を失っています。ひとり親世帯でも、コロナで出費が増え家賃を滞納するケースが起きています。また所得がある程度ある家庭では救済措置の対象とならず、しかし60過ぎの方だったり家族に障がい者がいたり、再就職が難しい方などは困窮し相談に至るケースがありました。 コロナが長期化していることで、もともと社会的に孤立していたり弱い立場にあり困窮状態になっていた方は、より影響を受け、また再起の力も弱まっています。相談案件もリスクの高い方からのものが増えており、今後のコロナの長期化やコロナ後の経済ダメージを考えると正直ゾッとします。今できることで、支援体制の強化、活動資金の供給源を増やす事、事業継続、強化の方法の模索は並行して行っています。 |
|-------------------|---|

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ①受益者 | ②課題 | ③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④指標 | ⑤目標値・目標状態 | ⑥結果 | ⑦考察 |
|-------|-----|--|------------------------|-----------|-----|--|
| 生活困窮者 | その他 | お部屋を借りれなかった人たちが、地域で安心して暮らせ、地域の人も安心して共存できる環境が整備されている。 | 一年後に何名入居に結びつけることが出来たか。 | 20名 | 57名 | お陰様で、予想をはるかに超える数の相談へ対応、入居に結びつけることが出来ました。しかしながらコロナが落ち着いた現段階では、今後もまだまだ住宅確保要配慮者の相談は多く寄せられると思われ、対応するための支援体制の再構築が必要と考えています。 |

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

| | |
|----------------|---|
| 事業実施以降に目標とする状況 | 1人でも多くの、住宅確保要配慮者を入居に結びつける。住宅確保要配慮者に理解ある大家さんを1人でも多く開拓する。 |
| 考察等 | 目標を超える人数の方を入居に結びつけ、その後も何かあれば相談を受けて生活支援を行い、ほとんどの方に安定して生活を続けていただいています。中には、金銭管理が出来ない方、収入が安定しない方、新生活への順応に時間がかかる方など継続的に支援が必要な方もいらっしゃいます。また、今回、多くの相談に対応する中で培われた対応のノウハウを整理し、新たにつながった大家さんとの関係を継続していくことで、今後の活動をより良いものへ変えていきたいと思ひます。しかしながら、支援体制の整備は喫緊の課題として鳥くまいといけませんと感じています。 |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|---|------|---|
| 入居支援（賃貸物件の紹介、契約時のサポート、連帯保証人代行） | 計画通り | 住居確保が難しい方へ、理解ある大家さん、不動産会社の紹介。サブリースによる物件提供。 |
| 入居後支援（属性に応じた支援団体とのサポート体制の構築、生活相談、食糧支援、家賃貸付など） | 計画通り | 入居初期の生活体構築の手伝い（生活用品、家電、布団など寄付者とのコーディネート）、安定して生活するための問題の洗い出しと支援体構築、他団体との連携 |
| 住宅確保要配慮者へ理解ある大家さんの開拓 | 計画通り | 協力していただいている大家さんからの紹介。サブリースによる物件提供の仕組み作り。 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|--|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | とにかく、予想を超える数の相談がありました。緊急性が高い案件も多く、無理やり対応せざるおえないものもありました。これにより、新しい協力者や連携先との出会い、手法のヒントを得ました。次年度の事業展開についても新し発想を得ました。実現できるかは別ですが、今年度の活動から波及させていくつもりです。 |
|---------------------|--|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|--|
| 課題を取り巻く変化 | 1年間事業を行ったことで、予定を大きく超える数の住居を確保できずに路頭に迷わなければならなかった方を入居に結びつけることが出来ました。さらに住居を確保したことで行政サービスも受けることが出来るようになり、その中から数名ですが再起していった方もいらっしゃいます。まだ生活が安定しない方もいらっしゃいますが、他の支援機関と継続して伴走していきます。しかし、1年が終わるにあたって、コロナは長期化しており、その影響はさらに広がっています。相談数は多い状況のまま続いており、さらにDV案件が増えてきているのも気になります。今後、コロナが落ち着くまで生活困窮者がひとりひとりと厳しい状況に追い込まれていくのではと考えられ、何よりコロナ後の経済ダメージが発生した時が懸念されます。とにかく、増加する相談に支援出来るように続けていくことと、支援体制の構築、事業の展開を考えています。 |
|-----------|--|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|-------------|--|
| 佐賀市自立支援センター | 住宅確保要配慮者の紹介、入居後支援における連携 |
| 佐賀県自立支援センター | 住宅確保要配慮者の紹介、入居後支援における連携 |
| 佐賀市社会福祉協議会 | 住宅確保要配慮者の紹介、入居後支援における連携、生活困窮者に活用できる制度の紹介 |
| おたっしゅ本舗 | 高齢の住宅確保要配慮者の紹介、入居後支援における連携 |
| フードバンク | 食糧や入居時に必要な物資の提供 |

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

| | | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|------|-------|-----------|-----------|---------|
| 事業費 | 直接事業費 | 5,400,000 | 5,400,000 | 100.0% |
| | 管理的経費 | 0 | 0 | #DIV/0! |
| 合計 | | 5,400,000 | 5,400,000 | 100.0% |
| 補足説明 | | 特になし | | |

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|--------------------------------|---|
| 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等) | なし |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの | なし |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例) | 住宅確保要配慮者向けの事業を紹介しているチラシへの掲載 使用しているパソコンヘステッカーを貼っている ホームページ上に掲載 |
| 4.報告書等 | |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む) | 状況 | 内容 |
|---|----|----|
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 完了 | |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。 | | |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | | |

| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
|---|--|----|
| 1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | はい | |
| 3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | はい | |
| 4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。 | はい | |
| 5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | はい | |
| 6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 外部監査 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 | |
| | <input type="checkbox"/> 実施予定はない | |
| 7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8. 内部通報制度は整備されていますか。 | はい | |